

(8) 乳幼児期における遊びの質および生活状況の日本と中国の比較

川崎医療福祉大学大学院 保健看護学専攻 博士課程 鍵小野美和
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 姜 波
川崎医療福祉大学 保健看護学科 川出富貴子
藤田保健衛生大学 医学部 公衆衛生学講座 飯田 忠行
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 佐々木正美

【要 旨】

【緒言】近年，社会の変化に伴い子どもの「遊びの質」が変化し，テレビやゲームによる弊害が表面化している．R.シュタイナーは7歳までの発達課題を「意志」の育成としているが，遊びの質の変化に伴い子どもの意志力が弱まり，子どもの「育ち」に深刻な問題を投げかけている．そこで，子どもの育ちに重要な遊びの質と子どもの育ちとの関連を検討することとした．【研究目的】乳幼児期における遊びの質および生活状況に関する日本と中国の相違を明らかにし，学生の意志力の要素となる現在の認識と乳幼児期の育ちとの関連をみることにより，意志力育成の基礎資料とする．【研究方法】対象は，研究協力への承諾が得られた日本と中国の大学生552名．調査方法は自記式質問紙調査法．本研究は川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を受けて実施．調査内容は，乳幼児期の遊び・生活体験および生育環境，乳児期の快感覚，基本的欲求，意志力の要素となる

項目および対象者の属性など．分析はSPSSを用いて， χ^2 検定，T検定，Mann-Whitney検定を実施．いずれの分析においても有意水準5%未満．【結果・考察】日本と比べて中国の大学生の方が，将来に対する夢があり，意欲，忍耐力，コミュニケーション能力，創造力があることが示された．乳幼児期の「遊び・生活体験」では，中国の大学生は，水遊び，自然素材での遊び，活動的な遊び，リズムカルな遊び，坂道や階段の上り下り，ゲーム，一人遊び，集団遊び，抱っこされた体験が有意に高く，将来に対する夢や意欲，忍耐力，コミュニケーション能力，創造力に影響していることが推測された．また，乳児期の幸福感および睡眠・お風呂・排泄の快感覚では中国の方が有意に高く，乳児期の快感覚と基本的欲求の快感覚が子どもの育ちに大切であることが推測された．さらに，日常生活での祖父母や父母との遊びやふれ合いが関連していることが示唆された．